



- 地球温暖化の影響でスイス南部の山間部で氷山が崩落し危険地域では全員避難となり帰宅再居住は不能の可能性が高いと報道された。このままではスイスの氷山は 21 世紀のどこかで消滅するとも言われている。10 年前に国連で承認された SDG s は、我が国では小学生でも概要が掌握されているが、17 ある各課題毎の推進プログラムが深掘りされ世界中で共有・推進されない限りどの課題も中途半端に終わってしまうのではと懸念される。

□ 建築部会：(岡本 直、河野豊弘 記)

●5 月 19 日第 295 回建築部会 話題提供「CLT 耐震シェルター開発の紹介」

・昨年より、日本 CLT 協会リモデリング WG に参加して CLT の特性を活用した耐震シェルターの開発を進めています。『リモデリング WG の役割』としては「CLT で出来ることの情報発信する」の位置づけです。今回の開発コンセプトとしては、CLT の特徴を活かして『人命保護のための緊急避難』はもとより『既存建物の倒壊防止を目的とした耐震補強的な複合機能』を持たせるというコンセプトをあげています。CLT の特徴(1. 軽量、2. 構造材料、3. 短工期、4. 断熱・遮熱・遮炎性能を保有)を活かした商品開発を行い、最終的には『在宅避難』を可能にする耐震シェルターを目指しています。まだ開発途中ですが、現在までの開発内容を 5 月 19 日建築部会にて紹介し、部員からの意見を頂きました。

(河野豊弘)

・これまでもサーツは小藤常務理事が窓口になり、建築部会からも日本 CLT 協会の WG に参加するなどを通して技術協力を行っています。リモデリング WG (主査 古賀一八・元福岡大学) の今年度テーマは 1) リモデリングする上での配慮ポイント、2) シェルターシステムの検討・提案、3) 応急仮設用ログハウスの検討・提案、4) リモデリングに適した木材塗料の検討・提案をあげています。この WG には河野さんが委員として、岡本がオブザーバー参加しています。

また、2020 年には、「CLT を用いた既存建築物の耐震補強方法の提案」が林野庁の補助事業に採択され、日本 CLT 協会内に「耐震補強提案委員会(委員長 五十田博・京都大学)」が発足して既存 S 造建物を CLT 耐震壁で補強する工法の検証実験等が行われました。この委員会には谷垣氏と岡本が参加しました。

(岡本 直)

○次回第 296 回建築部会は、6 月 16 日 ZOOM で開催予定。

□ 戸建住宅部会：(小須田廣利 岡野泰三 記)

●戸建住宅部会 5 月度ショートスピーチ内容

・昨年の報告では、マンションも含めて、給排水設備の劣化、施工不良、管理不足による『地盤沈下被害』や、『住宅の不同沈下被害』について報告しましたが、今回は、戸建て住宅の不同沈下被害について、原因と修復工法について報告しました。

・また、令和 5 年 5 月施行された『盛土規制法』に関わって、一般の市民の方からの「盛土地」、「石積擁壁」「がけ地等土地の安全性」に関する相談が増えている実情を、地盤工学会の提言から 2013 年に設立された『地盤品質判定士協議会』の動向の報告書資料からの説明に加え、新しい資格である『地盤品質判定士』の活動状況を説明しました。特に、自然災害(地震、洪水等)や、人工地盤での被害(盛土、擁壁、地盤支持力の不均一等)での、敷地調査、地盤調査から住宅基礎設計時の土木技術と建築技術の『橋渡し役』としての役割、存在意義があることを説明しました。

当協会も、一般市民や地方工務店から地盤設計・既存擁壁等の相談がありますが、『地盤品質判定士協議会』の活動状況を知った上で相談対応を行うとともに、必要に応じて情報交換の実施を検討する必要があると感じています。

(岡野泰三)

- 以前にも報告しましたが、戸建部会では毎回(月に一度)持ち回りで「ショートスピーチ」の時間を作っています。建築に関する事項を自由に発言する時間です。各部員の専門分野のスピーチは興味深く、質問も多く各回興味深く拝聴しています。

(小須田廣利)

○次回の部会は、6 月 13 日(金) 16 時より開催予定



□ 集合住宅部会：（秋山哲一 記）

●元同僚である明治大政経学部の野澤千絵さんの日経新聞掲載論考を読んだ。タイトルは、「高コスト化する都市づくり」。近年、駅前の好立地を活用するため、再開発の切り札として市街地再開発事業が仕掛けられ、その主役としてタワーマンションが位置付けられている。自治体はこうした再開発に対して容積緩和を行う対応をしてきた。しかし、再開発は一般的に事業費を賄うことを目途に保留床を多く確保することになり、結果として建物は高層化し、それを受けて高価格になる傾向が高い。さらに、もともとの建物の解体費、移転補償費などが上乗せされ、さらに割高となる。庶民に手の届く住宅からは程遠く、だれのための再開発なのか、見えづらくなっている。高額物件は、投資、あるいは投機物件としての色彩を強めているとも言われている。海外の大都市では、投機目的や非居住の外国人による購入に対して、購入制限や外国人購入者税のような措置を講じているとも指摘されている。このような事態もどうかと思うが、個人的には、これらの高価格住宅ストックが、価値観を共有しない多数の区分所有者によってバラバラに保有されていく姿は、30年～50年先において、合意形成をより複雑化し、うまく維持管理されるのか、考えさせられる。

○次回のマンション管理組合支援事業部との合同部会は、6月17日（木）17:00～開催予定

□ マンション管理組合支援事業部：（丸山和郎 記）

丸山の移住先、長野県安曇野もようやく田植えの農繁期を過ぎ、在宅介護ヘルパーのスケジュールが定まるようになった。現在の悩みは新築の車寄せの屋根裏の梁に燕が巣作りをしようと盛んに泥と藁くずを運んできれいな梁を汚してしまうことだ。鳥よけ網を張っても照明ブラケットや排気口を狙っていつの間にか泥巣藁を運んでいる。どうやら燕にも新築の木の香りが雛を育てるのに最良であることが分かるらしい。

● 現在進行中の委託業務の進行状況

①ライオンズガーデン百合ヶ丘大規模修繕工事監理業務

大規模修繕工事は6月中に完了予定で、現在竣工図作成段階にあり、監理業務は7月末完了の予定通り順調に進んでいる。

①-2.サッシ改修を軸とする国交省補助事業の申請補助業務

2か年申請で、1工区、2工区の区分けをしているが、2工区工事の完了に合わせ、補助金申請支援業務も7月完了予定である。

②スカイビュー戸塚省エネ改修工事補助事業申請手続き支援業務

工事は昨年11月に完了。4月中に補助事業「完了実績報告書」を作成提出。支援業務が終了。

③パークコート本郷真砂大規模修繕工事コンサル業務

業者選定補助業務の段階まで進んでおり、5月24日の理事会承認の後、サーツのホームページより公募、入札の予定。

□ 余滴： 青梅を一つ拾えば一つ落ち 捷三郎